

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度技術情報第29号(チャのカンザワハダニ)について (送付)

チャのカンザワハダニについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosh/index.html>) にも掲載しています。



令和7年度 技術情報第29号

県本土茶園の巡回調査(2月)において、カンザワハダニが多い状況です。今後も、カンザワハダニが増加しやすい気象条件が続くと予想されており、一番茶への被害が懸念されます。

ほ場を見回り、発生状況に応じて一番茶前の適切な防除に努めてください。

1 対象病害虫 カンザワハダニ

2 対象作物 チャ

3 情報の内容

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 多

4 予報の根拠

(1) 2月の調査では、発生ほ場率は56%(平年34%)と高く、寄生葉率は3.3%(平年1.5%)といずれも平年より高く、一部では中発生ほ場がみられる(表1、図1)。

(2) 3月6日の定点(センター内茶園、品種:やぶきた、ダニ無防除)の精密調査(50葉)では、寄生葉率(成虫・幼若虫)が20%と高く、寄生葉では成虫からの産卵が多数認められ、ふ化後の幼若虫も観察されている。なお、ハダニの天敵も観察されている。

(3) 2月下旬以降、平年に比べ気温はかなり高い状況である(表2)。また、今後の1ヶ月予報(3月5日発表)においても、平均気温は平年並か高く、降水量は少ないと予報されており、カンザワハダニが増加しやすい気象条件が続くと予想される。

5 防除上注意すべき事項

(1) 2月下旬以降、平均気温が10℃を超え産卵・増殖が盛んとなり、寄生密度が高まりやすい状況にある。このため、各ほ場を見回り発生初期の防除に努める。

(2) 防除では、天敵に影響の少ない農薬を選択し、ハダニの生息する裾部、葉裏にも十分に薬剤が付着するように留意する。

(3) なお、農薬の使用にあたっては、使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散を防止する。

6 参考データ

表1 チャのカンザワハダニの地域別発生状況（2月中旬）

地域 ^{注2)}	調査 ほ場数	発生ほ場率 (%)		発生程度 ^{注3)} (%)					寄生葉率 (%)	
		本年	平年	甚	多	中	少	無	本年	平年
南薩	16	38	19				38	63	0.9	0.5
北薩	10	90	44			30	60	10	7.6	1.7
大隅	8	75	65				75	25	2.8	3.2
県計	34	56	34			6	51	44	3.3	1.5

注1) 調査日：令和8年2月10～18日

注2) 調査地点

：南薩：南九州市穎娃町牧之内(谷場)②・穎娃町上別府(青戸)②・知覧町塩屋(菊永)②
・川辺町下山田(塘池)②

南さつま市加世田内山田(東山)②，枕崎市別府(中原)②，日置市伊集院町古城

：北薩：さつま町船木(舟木)②，出水市平和町②，霧島市溝辺町麓(論地)②，

霧島市牧園町三体堂①，湧水町木場①，曾於市末吉町岩崎②】

：大隅：志布志市有明町野井倉②・有明町原田②，鹿屋市東原町②，錦江町城元②

注3) 発生程度（寄生葉率）甚：48～，多：31～47，中：11～30，少：1～10（100葉調査）

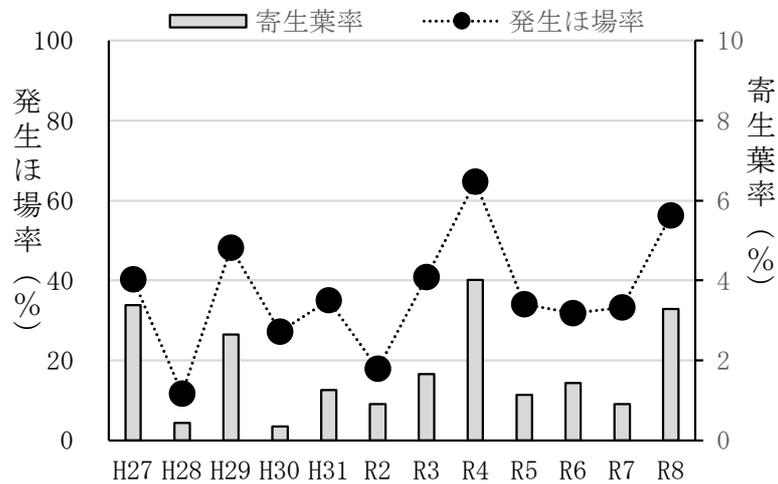


図1 発生ほ場率と寄生葉率の年次推移（2月）

表2 県本土各地点の2月21日～3月4日の平均気温と降水量

地域 (地点名)	平均気温			降水量		
	本年 (°C)	平年 (°C)	平年差 (°C)	本年 (mm)	平年 (mm)	平年差 (%)
南薩 (枕崎)	15.5	11.0	+4.5	69.0	63.3	109
北薩 (溝辺)	13.3	8.4	+4.8	107.5	63.6	169
大隅 (志布志)	14.7	9.9	+4.8	94.5	64.0	148

注1) 気象庁の地域気象観測所のデータから作成